

どのような指針で、どのように行われるのか?

動機づけ教育

- 1 自分の将来を見つめた
実習先の調査、選択
- 2 実習受入れ先との
事前相互コミュニケーション
- 3 先輩の実習成果発表会
を見学してモチベーションアップ

実社会体験教育

- 体験実習先
- 生物生産技術学科
生産農家、生物生産関連産業の施設など
 - 環境緑地学科
造園会社、環境NGOなど
 - 醸造学科
酒類、味噌、醤油の製造会社
 - 栄養学科
病院、給食施設など

自信づけ教育

- 1 実習レポートの提出
- 2 1年生に向けての
実習成果発表会

希望の進路

- 生産農家
- 造園家
- 醸造家
- 栄養士
- 4年生大学への編入学

自信を持って、
希望の進路へ

社会のリーダー

平成18年度からの新たな実習実施方法

新たな取り組み

- STEP 1** 学生は1年次の10月に本学教員との打合せで希望職種を選定します。
- STEP 2** 学生は決定した受入先に自己プロフィールを送付します。
- STEP 3** 受入先は、学生のプロフィール受領後、受入先の概要(農家であれば栽培作物の種類、作付面積など)、受入中の作業内容、家族構成、訪問学生へのメッセージなどを送ります。
- STEP 4** 学生は、受入先の状況を把握することで、早くから実習内容ならびに受入先の地域的特徴を予習します。
- STEP 5** 実習の実施
- STEP 6** 実習後、学生および受入先は、満足度の高かった点や次年度へ向けての改善点などをレポートに盛り込み、提出します。なお、提出された学生レポートは、受入先にも送付します。
- STEP 7** 実習後、学生自身による学科別報告会を、受入先を招いて開催します。この報告会は次年度派遣学生を対象に行なわれ、実習の心構えなど体験学生・受入先からの生の声を伝えることで、低学年のうちから実習へのモチベーションを高めます。(なお、発表学生は事前に実習内容を取りまとめ、パワーポイントなどの情報機器・ソフトを使用し、発表することでプレゼンテーション能力の向上につなげます。)
- STEP 8** 実習学生全員や受入先からのレポート、アンケート結果、名簿などをまとめ年度報告書を作成します。報告書は受入先、実習学生、次年度派遣学生、教職員、地域自治体・関係団体及び出身高校に送付することで実習への取組を公表し、地域・高校との連携を深めて行きます。

実習実施プロセス

- A 入学時オリエンテーション
- B フレッシュマンセミナー
- C 学外体験実習ガイダンス
(学生目録による発表・運営)
- D 学生・希望職種調査
受入先・受入希望調査
- E 実習先調整・決定
- F 学生から実習先へ
プロフィール送付
- G 受入先から実習生へ
受入先概要(栽培作物の種類、作付面積、
作業内容、家族構成、訪問学生への
メッセージ)を送付
- H 受入先の状況把握による予習
- I 学外体験実習実施
- J 実習期間中又は事後に教員訪問
- K 学生・受入先双方での
レポート提出と交換
- L 学生主導による実習報告会を受入
先参加のもと、開催し次年度への
改善を議論します
(次年度派遣学生のモチベーションを高める)
- M 実習評価
- N 短大部学科長会で教育効果の検証と
次年度実習の改善を具体化
- O 学生主導による年度実習報告書作成
次年度学生受入先学生、地域に配布し、情報
を共有
- 次年度オリエンテーションへ

以上のステップ1から8を学生自らが段階を踏んで学習することにより社会的経験をj得て自分自身のキャリアデザイン構築に結びつけ、最終的には地域における多様な職種での指導者を目指すこととなります。